

### ◆遺族基礎年金

次のいずれかの要件に当てはまる方が死亡したとき、死亡した方によって生計を維持されていた「子のある配偶者」または「子」が受け取ることができます。

- ①国民年金の加入中に死亡したとき
- ②国民年金に加入していた 60 歳から 64 歳で、日本国内に住所を有していた方が死亡したとき
- ③老齢基礎年金を受給する権利がある方が死亡したとき
- ④老齢基礎年金の受給資格を満たした方が死亡したとき

※上記①または②の場合、保険料の納付要件を満たしていることが必要です。

※上記③または④の場合、保険料納付済期間、保険料免除期間および合算対象期間並びに 65 歳以降の厚生年金保険の被保険者期間を合算した期間が 25 年以上ある方に限ります。

#### 遺族基礎年金の年金額（令和 7 年度）

##### ▶▶子のある配偶者が受け取るとき

配偶者の生年月日が昭和 31 年 4 月 1 日以前の方…829,300 円＋子の加算額

配偶者の生年月日が昭和 31 年 4 月 2 日以後の方…831,700 円＋子の加算額

##### ▶▶子が受け取る時…831,700 円＋ 2 人目以降の子の加算額

子の加算額

- ・ 1 人目及び 2 人目 … 各 239,300 円
- ・ 3 人目以降 … 各 79,800 円

「子」とは…

- ・ 18 歳になった年度の 3 月 31 日までの方
- ・ 20 歳未満で障害年金の障害等級 1 級または 2 級の状態にある方

### ◆国民年金の独自給付

#### 寡婦年金

国民年金に加入していた夫が死亡したとき、次の要件を満たす妻に 60 歳から 65 歳になるまでの間支給されます。

- ・ 夫が第 1 号被保険者として、保険料納付期間および免除期間が 10 年以上ある
- ・ 夫と継続して 10 年以上婚姻関係（事実婚を含む）にあった
- ・ 夫の死亡当時、生計を同じくしていた

#### 死亡一時金

第 1 号被保険者として保険料を 36 月以上納めていた方が、老齢基礎年金や障害基礎年金を受けないまま亡くなったとき、生計を同じくしていた遺族（配偶者、子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹の中で優先順位の高い方）が受け取ることができ、保険料納付済期間に応じて額が決定します。

※遺族基礎年金を受け取ることができる方がいる場合、請求できません。

※死亡日の翌日から 2 年を経過した場合、請求できません。

※寡婦年金を受ける場合は、どちらか一方を選択します。